

通し番号	4706
------	------

分類番号	25-9C-32-05
------	-------------

神奈川県沿岸域におけるアイゴ未成魚の出現について

[要約] 近年、全国各地の藻場において、アイゴ等の植食性魚類による深刻な食害がみられている。三浦半島においても、24年の秋にカジメ藻場が広範囲に衰退し、25年6～11月にアイゴの成魚及び未成魚が定置網によって大量に漁獲された。また、19～25年の夏季に金沢区野島海岸の調査で未成魚が採捕された。これらの未成魚は、本県沿岸域で再生産した群と、沖縄県沿岸等でふ化し、神奈川県沿岸にまで分散・移動した群の2群から成ると考えられた。

神奈川県水産技術センター・栽培推進部 連絡先 046-882-2314

[背景・ねらい]

アイゴによる藻場の食害を防ぐためには、まず本県沿岸域におけるアイゴの発生源の特定が重要である。本研究では平成25年8～11月にかけて、佐島漁港に水揚げされた定置網漁獲物からのサンプルと、横浜市金沢区野島海岸で行ったサーフネット調査のサンプルを用いてアイゴの体長組成を明らかにし、産卵期との関係からその発生源について検討した。

[成果の内容・特徴]

- 1 6月23日、佐島漁港に水揚げされたアイゴは尾又長30～35cmの成魚で、放卵・放精がみられた。
- 2 8月24日、横浜市金沢区野島海岸で採捕された群は尾又長1.7～4.3cm、9月21日は尾又長2.1～6.6cmの0歳魚の未成魚であった(図1)。
- 3 9月11日、佐島漁港に水揚げされた尾又長7.6～10.4cmの群は0歳の未成魚であり、その後成長して10月14日には8.5～13.6cm、11月21日は8.8～15.8cmの群に該当すると思われた。同様に1歳魚、2歳魚と思われる群も確認された(図2)。
- 4 8月24日に横浜市金沢区野島海岸で採捕された未成魚群は、成長速度からふ化後30～50日であり、7月前後に生まれたと推定された。
- 5 佐島漁港に9月11日水揚げされた0歳魚の未成魚群は、成長速度からみて、生まれてから3ヶ月以上経過しており、同年6月以前(4～5月)に生まれたと推測された。
- 6 本県海域でのアイゴの産卵は7～8月とされ、横浜市金沢区野島海岸で採捕された未成魚は本県海域で生まれた個体群と思われる。一方、佐島漁港に9月11日に水揚げされた0歳魚は、6月以前に生まれたと推測されたことから、6月23日に確認された産卵由来ではなく、産卵期(4～7月)が合致する沖縄県海域で誕生し、その後海流によって本県沿岸に運ばれてきた個体群と考えられた。
- 7 本県沿岸域では、本県生まれの個体群と他海域生まれの個体群の2群が存在すると思われた。

[成果の活用面・留意点]

近年、本県沿岸域におけるアイゴの個体数は急激に増加し、三浦半島西岸域におけるカジメ藻場等の衰退が急速に進んでいる。本県沿岸に分布するアイゴは本県海域で生まれた群と他海域から運ばれて来る2つの個体群によって形成されるため、アイゴの分布量等の動向を知るには、全国各地での産卵状況、各海域間の移動等を解明する必要がある。また、それと併せアイゴの有効な除去方法を確立し、藻場の回復をはかる必要がある。

[具体的データ]

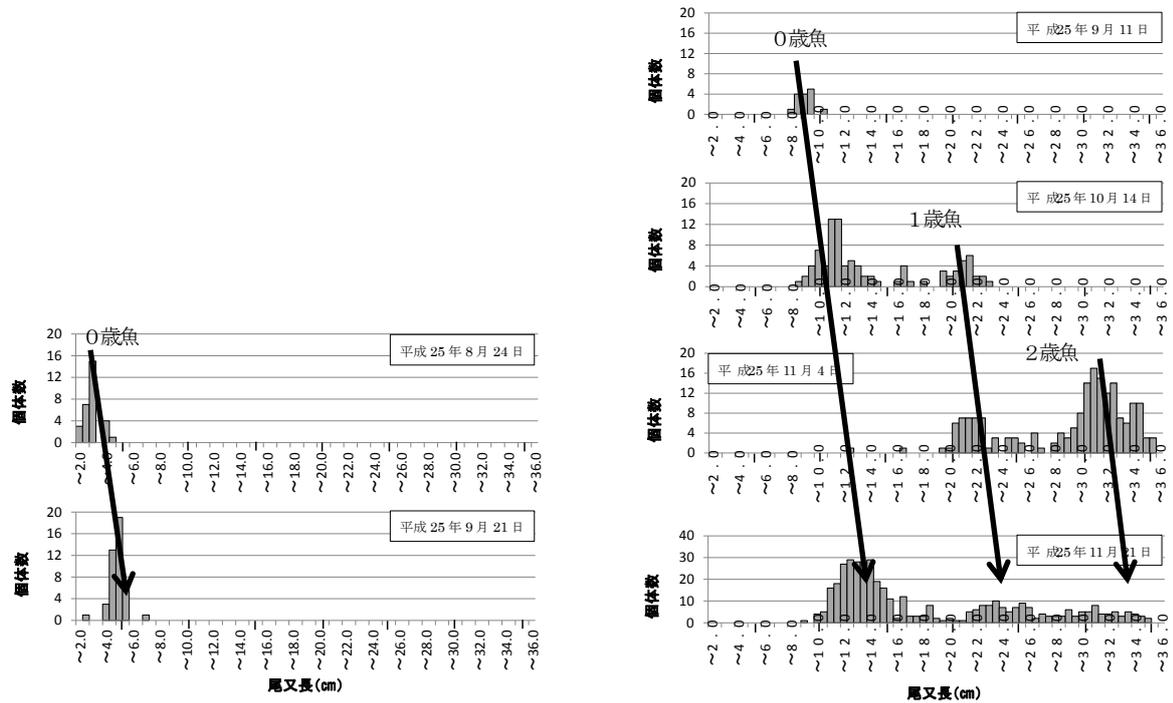


図1 野島海岸で採捕されたアイゴの尾又長組成

[資料名] 神奈川県水産技術センター研究報告第7号、
 [研究課題名] 神奈川沿岸域におけるアイゴ未成魚の出現について
 [研究期間] 平成25年度
 [研究担当者] 櫻井 繁、工藤孝浩